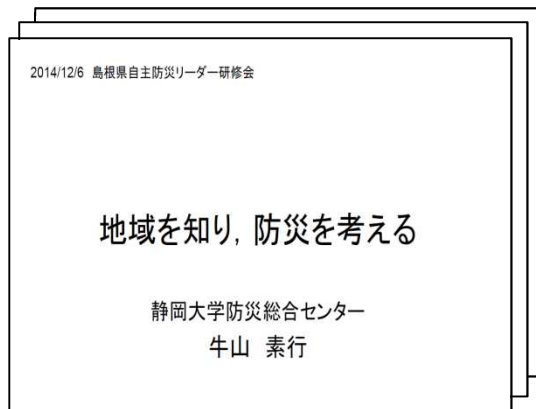


## 研修内容

### (1) 講義「地域を知り 防災を考える」

静岡大学防災総合センター 牛山素行 教授



地域を知ることの重要性と、気象や災害に関する情報を日頃から収集することの重要性について講義をいただいた。

『山は崩れるもの』であり、『ここではこのような災害が起こりうる』という『素因』を理解し、想定をしておくことが重要。また、気象情報や防災に関する情報を取り入れることが必要。」

### (2) 講義「防災・減災と男女共同参画」

(特活)NPO政策研究所 (元・神戸新聞論説委員)

相川康子 専務理事

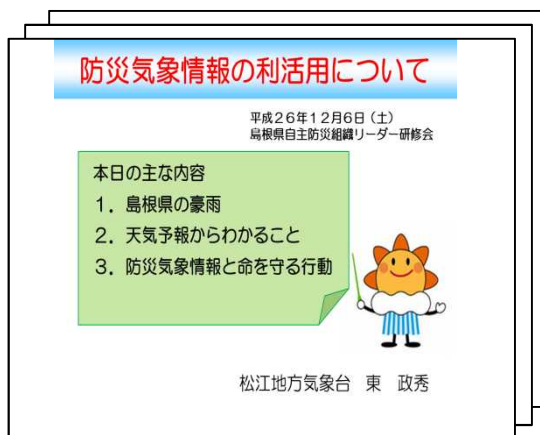
災害対策・対応には、男女共同参画の視点が必要だということについて、講義をいただいた。

「災害時の現場作業の多くは力仕事だから、男性に任せておけばよい、『男性の仕事』という考え方では不十分。防災活動、災害発生から復旧復興にかけて、一連のプロセスを考えると、『老若男女すべての人々の主体的な参画』が不可欠。」



### (3) 講義「防災気象情報の利活用について」

松江地方気象台 東政秀 観測予報管理官

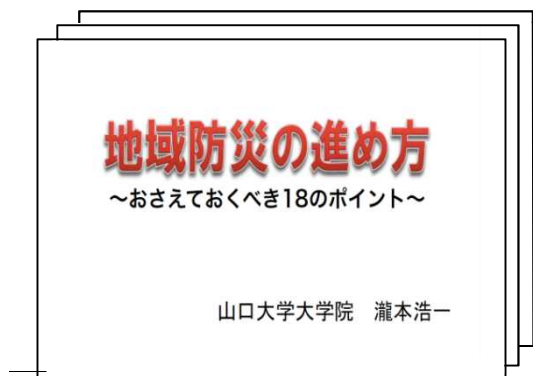


日頃から防災気象情報に注意しておくこと、早めの避難行動への意識の重要性について講義をいただいた。

「日本は、台風や地震など様々な自然災害が発生する国で、災害に巻き込まれる可能性はおおいにある。気象庁のHPでは、『防災気象情報』を見ることができ、このような情報をもとに、気象災害から『命を守る行動』をとる必要がある。」

#### (4) 講義「地域防災の進め方」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授



実際に地域において、どのように防災活動を進めたらよいか、講義をいただいた。

「あらかじめ『どこ』が危険で、過去に災害が起きた場所なのかを把握し、災害時に『いつまで』に対応をしなければならないのかを検討しておくことが必要。『机上の検討』と『現場で検証』の繰り返しが大切。」

#### (5) 演習「まち歩き・災害図上訓練 (T-D I G)」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授

NPO法人ぼうぼうネット 山崎隆弘 事務局長 ほか

参加者は、6班に分かれてまち歩きを行った。その後、班ごとに地図を囲み、都市計画図にまち歩きで得た危険箇所や避難所などの情報やハザードマップの情報を書き込み、実際に災害が起こった場合を想定し、図上で災害対応の動きや流れを確認した。

